

新^{しん} 緑^{みどり} ニュース



病院の理念

確かな医療技術
やさしい対応
地域への貢献

さんきかい よこはましんみどりそうごうびょういん
医療法人社団 三喜会 横浜新緑総合病院
〒226-0025 横浜市緑区十日市場町1726-7
TEL. 045-984-2400 (代表) FAX. 045-983-4271
発行 地域医療連携室 TEL.045-984-6216 (直通)



認知症認定看護師の活動

横浜新緑総合病院 認知症看護認定看護師 江本 大輔

【認知症とは】

脳の病気や障害など様々な原因により、認知機能が低下し、日常生活全般に支障が出てくる状態をいいます。アルツハイマー型認知症では、脳神経が変性して脳の一部が萎縮します。もの忘れを発症し、ゆっくり進行します。

仕事や家事など普段おこなっていたことでミスが増える、お金の管理ができない、慣れた道で迷う、話を通じなくなるなどのサインが見られるようになります。年をとるほど認知症になりやすく、2025年には高齢者の約5人に1人がなると予測されています。

【認知症の方が入院すると】

突然の慣れ親しんだ環境からの変化により、混乱が生じ、今まで出来たことが出来なくなることがあります。認知症の方はせん妄(記憶障害、妄想など)を発症しやすく、認知症が進行したように見えます。せん妄は短期間で発症し、夕方から夜間に落ち着かなくなることがありますが、一時的な症状で、誘因や環境を改善することで治まります。

【認知症看護認定看護師の活動】

認定看護師の活動として様々な取り組みを行っています。

認知症の方は入院の理由やナースコールの説明を聞いても忘れてしまいがちです。文字や絵による説明を目につく場所へ設置し、カレンダーや時計を使うことで、記憶や日時の認識を補助するための工夫をしています。

患者さまのこれまでの生活に着目し、出身地、仕事、家族の話題などで関係性を築きながら、頭や体の活動に趣味や興味(演歌の動画や塗り絵、折り紙など)を活用して昼夜のリズムを整えることで、認知機能の維持とせん妄の予防を目指しています。

また、つじつまの合わない言動があっても否定をせず、相手の立場に立って理由を推測しています。排泄であれば、ご本人の思いは『トイレに行きたい、失敗したくない』です。

「危ないです、動かないください」と伝えれば、『なんで止めるの』とさらに落ち着かなくなります。そんな時は「どうしましたか」と相手の思いを聴き、「トイレですか」と思いの表出を手助けするようにしています。失禁しないことで自尊心や羞恥心が保たれ、落ち着いて過ごせるようになることを目指しています。



病棟では、スタッフへ認知症看護について指導し、個々の患者さんのケアを一緒に考えられるよう支援しています。対応が困難な事例では、認知症ケアチームの医師、薬剤師、リハビリ、栄養士と多職種で協働し、患者さまのニーズ、ケアの調整、薬剤の調整、食事・栄養状態など患者さまを多角的に捉えた認知症ケアに取り組んでいます。

【認知症の方が安心して入院生活を送るために】

認知症の方、ご家族、スタッフが笑顔で過ごせるように、病院全体での認知症の理解、ケアの質が向上できるように認知症看護の実践・指導・相談に取り組んでいきたいと思っています。

現在は、病院内での活動に留まっていますが、今後は、地域の認知症看護にも関わることができたらと考えております。



WEB版みんなの健康講座

※オンライン配信

◇ WEB版みんなの健康講座はホームページ、スマホ(QRコード)からいつでもご視聴いただけます。





日本内視鏡外科学会 消化器一般外科領域 鼠径ヘルニア部門 技術認定

横浜新緑総合病院 外科・消化器科 医長 佐々木 一憲



この度、日本内視鏡外科学会技術認定医制度 消化器一般外科領域 鼠径ヘルニア部門で技術認定を当院の平山亮一先生に続き、取得させていただきました。鼠径ヘルニア（脱腸）はよくある病気で当院でも年間100例以上手術を施行し、多くを腹腔鏡手術にて行なっております。今回技術認定をいただいたことで、今まで以上に気を引き締めて診療を行ない、手術技術を患者さま一人ひとりにきちんと還元させていただくことが大切だと考えております。

日本内視鏡外科学会技術認定医制度とは実際の手術ビデオを学会に送り、その技術を評価する制度で、腹腔鏡手術に携わる医師の技術を高い基準にしたがって評価して、後進を指導するにたる所定の基準を満たした者を認定する制度です。その合格率は10～20%程度で、2022年までに関東圏ではヘルニア部門の技術認定医は37名、神奈川県内では13名（内2名当院）しか在籍しておりません。大学病院を含めた大きな総合病院がほとんどな現状で、当院の鼠径ヘルニア手術では大学病院で行う医療の質を確保しつつ、できるだけ敷居を低くして医療提供をさせていただこうと考えておりますので、引き続き今後ともよろしくお願ひします。



泌尿器科受賞報告 第31回日本性機能学会東部総会

石川公庸泌尿器科部長が2022年4月23日に第31回日本性機能学会東部総会（東京）で発表した「若年層の早朝勃起はメタボリック症候群の早期発見に貢献しうる-当院人間ドックにおける調査-」が最優秀演題賞を受賞いたしました。

2020年に当院の人間ドック・健康診断の男性受診者にご協力いただいた臨床研究報告です。勃起障害もメタボリック症候群も動脈硬化が関係しています。若年層において、早朝勃起頻度低下とメタボリック症候群に相関を認められたことから、いわゆる“朝だち”を気にかけることで、メタボリック症候群の警鐘のひとつになると指摘しています。



『泌尿器科 月曜日午後は女性医師が担当しています』

泌尿器科は「男性が受診するもの」、「男性医師には相談しにくい」という理由で、受診しづらいと感じている女性の方も多いかと思ひます。現在、月曜日の午後に女性医師が泌尿器科外来を担当しています。泌尿器科の疾患でお悩みの女性の方もお気軽にご相談ください。※担当医師は変更になる場合があります。



部門紹介 2022 | リハビリテーション部 言語聴覚療法

リハビリテーション部には、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士の3つの専門職が在籍しています。今回は言語聴覚士について紹介します。

言語聴覚士は、コミュニケーション障害に対して能力回復訓練を行っています。具体的には「聴く・読む・話す・書く」など言語機能に障害が生じる『失語症』や話しづらさが生じる『構音障害』、注意、遂行機能などに障害が生じる『高次脳機能障害』の患者さまの訓練を担当しています。また、食べたり飲んだりすることに問題が生じる『嚥下障害』も対象としていて、飲み込みの訓練や食事の工夫、食べ方のアドバイス、ご家族への介助指導など退院後の生活に向けて支援を行っています。



必要に応じてより詳しく嚥下状態を検査するために、入院中は嚥下造影検査を実施することがあります。口・喉・食道の動きをはじめ、構造の異常、食べ物の動き、誤嚥の有無を動画に撮ることが出来るので、画像を見ながら症状を詳しくお伝えすることが出来ます。コミュニケーションを図ったり、食べることは生活をするうえで生きがいに繋がる行為です。

私たちは患者さまの生活の質の向上を目指して、言語聴覚士14名で力を合わせて日々の訓練に取り組んでいます。

リハビリテーション部 言語聴覚士 原田 有希